

総合的な学習の時間の第1の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の教育目標

社会の変化に対応するだけでなく社会に変革をもたらす、グローバルな視点をもって茨城から世界に羽ばたく、高い志をもって地域医療をはじめ地域課題の解決を先導する、といった形で社会に貢献できる者を育成する。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

- (1) 地域・国際教育の目標
自校を含む地域の魅力、日本の伝統、世界における日本の役割について知り、他者と協働して、思考力や表現力を育成する。
(2) 科学教育(医学を含む)の目標
地域や卒業生等の協力を得て、科学や医学についての興味・関心を育み、自ら進んで課題を見つけて解決する資質・能力を育成する。
(3) キャリア教育(進路を含む)の目標
地域や卒業生等の協力を得て、自身の在り方・生き方や、社会課題についての関心を高め、それに対応した進路・職業選択に資する。

総合的な学習の時間の学習評価

- (1) 毎時間の活動を積み重ね、ポートフォリオで評価する。
(2) 発表活動を行う際に、「テーマ設定発表」「中間発表」「最終発表」の3段階で行い、自己評価のみではなく、相互評価も行う。
(3) 発表活動では、「プレゼンテーション形式」で作成したものを評価する。ただし、ガイドツアーによる発表活動では、ツアー用に作成した資料・原稿等を評価する。
(4) 学期末、学年末における指導計画の評価の実施を行う。

生徒の実態

本校生徒は、好奇心や様々な分野における知識が豊富であり、学力定着度も高い。「至誠一貫」「堅忍力行」の校是のもと、様々な活動に意欲的に取り組んでいる。一方、中学生という発達段階において、基本的な生活習慣が十分に身に付いていない生徒もいる。また、思考力や表現力においては、学びや体験を積むことでより一層の成長が見込まれる。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

全職員が一体となり、各学年職員だけではなく、生徒支援部・保健厚生部・養護教諭・スクールカウンセラー等と密に連携をとり、一人一人に適した配慮やその必要性を検討し、具体的な対応策をもとに支援する。

目指す生徒の姿

- 自己の目標の実現を目指し、社会性と創造力、自己調整力を身に付け、社会に貢献できる生徒
○ グローバルな視野をもって茨城から世界に羽ばたく生徒
○ 高い志と使命感を兼ね備え、地域医療をはじめ、地域課題の解決に貢献する生徒

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

- 1学年 足元・茨城を知る 2学年 日本を知る 3学年 世界を知る
(1) 「課題研究I」では、自らの足元である「水戸城探究」からガイドツアー「水戸一の道」を実施するとともに、茨城県内の市町村について情報収集を行い、茨城県内の各地域の魅力と今後の課題を見つける。「課題研究II」では、興味をもった分野について日本各地の情報収集を行い、体験活動や国内研修旅行を通して各地域の魅力と持続可能な日本の実現に向けて考えを深める。「課題研究III」では、テーマに関して各国の情報収集を行い、模擬国連や国外研修旅行を通して、誰一人取り残さない世界の実現に向けて考えを深める。これらを通して、主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。
(2) 「課題研究I、II、III」におけるガイドツアー活動やプレゼンテーション活動、実践活動を通して、表現力や発信力を育成する。
(3) 「課題研究I、II、III」において、グローバル社会に対応できる「課題を発見する力」、「発見した課題を分析し、探究する力」、「解決に向け、試行錯誤しながら実行できる力」等を育成する。
(4) 「課題研究I、II、III」において、他者と協力して課題を解決する協働的な学習を通して、社会性と自己調整力を育成する。
(5) ガイドツアーの英語での実施や「国際・科学探究プログラムI、II、III」、「心に火をつけるフォーラム」における講演会から、自分自身の将来について考える力、グローバルな視野をもって考える力を育成する。
(6) 「水戸一高との協働学習」では、「知道プロジェクト発表会」、「探究力向上セミナー」等を通して、課題研究のまとめ方やプレゼンテーションにおける表現力の向上、コミュニケーション力やリーダー性の育成を図る。

学習活動、指導方法等

- [学習活動]
(1) 第1学年は足元・茨城を知る、第2学年は日本を知る、第3学年は世界を知る、という探究課題を設定し、探究活動を行う。
(2) 物事の本質を探って見極める際に、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の一連の流れを基本として探究活動を行う。
(3) ガイドツアーの実施など、地域や社会の中での活動機会を設け、社会に貢献する意欲や態度を育成する活動を行う。
[指導方法]
(1) 各教科においてもプレゼンテーションの場を設定して、日常的に生徒の表現力の向上を図る。
(2) 発表する際の対象者は、学級や学年、同じ課題に取り組んでいる生徒同士や高校生などとするこことで、様々な視点からの助言を受けるこことで、多角的な考え方を取り入れられるようにする。
(3) 様々な外部人材を活用した研修視察や出前講座、講演会を設定し、専門家の意見に触れる機会を設定し、より深い学びへとつなげられるようにする。

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

- (1) 「地域の中の学校」として、6年間の計画的・継続的な教育活動を柱に、生徒の個性を伸長する。
(2) カリキュラム・マネジメントに努め、学校教育活動全体で教科等横断的な学習を推進するとともに、個に応じた学習や課題解決型学習に取り組む。
(3) 社会の各分野で活躍するトップランナーを講師として招いて、最先端科学や文化等の講演会やキャリア形成・進路選択に資する行事を計画的に設定する。